

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第423号 平成20年3月



『ツマグロヒヨウモン』 坂本 保己

目 次

	頁		頁
1) 専門医に学ぶ	熊澤文雄 … 2	6) 学術部インフォメーション	学術部 … 13
2) 感染症だより	西多摩保健所 … 4	7) 広報部インフォメーション	広報部 … 15
3) 連載企画		8) 理事会報告	広報部 … 17
俳句と短歌の35年	石井好明 … 5	9) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 19
スマトラの思い出(4)	鹿児島武志 … 7	10) あとがき	江本 浩 … 20
4) 伝言板	広報部 … 10	11) 表紙のことば	坂本保己 … 21
5) 地区だより		12) お知らせ	事務局 … 21
青梅地区 ボーリング大会	鹿児島武志 … 12		

専門医に学ぶ 第39回

問題

【症例】44歳女性

【主訴】喘鳴、呼吸苦

【現病歴】2007年8月初旬より夜間に喘鳴、呼吸苦が出現した。徐々に症状が悪化したため、9月中旬に当院内科（呼吸器内科）受診となった。発熱・体重減少は認めない。

【既往歴】特記すべき既往歴なし。

【家族歴】娘；花粉症

【嗜好等】喫煙歴なし。ペット飼育歴なし。アルコール；機会飲酒

【理学的所見】身長163cm、体重59.5kg。体温36.6℃、血圧114/75、呼吸数14回/分、脈拍64回/分。意識清明。胸部聴診上、強制呼気でわずかにwheeze聴取する。異常心音・心雑音は認めない。表在リンパ節は触知せず。浮腫は認めない。神経学的異常所見は認めない。皮疹は認めない。

【検査所見】

血液検査；WBC 7590/ μ L (Neutro 67%, Eosino 16%, Mono 1.5%, Lymph 15%)、Hb 11.3g/dL、Plt 28.7万/ μ L、AST (GOT) 14U/L、ALT (GPT) 11U/L、LDH 187U/L、BUN 9.3mg/dL、Cre 0.4U/L、CRP 0.2 μ g/dL、血沈30mm/h。RF陰性、抗核抗体陰性、PR3-ANCA陰性、MPO-ANCA陰性。 β -Dグルカン陰性。KL-6 287U/mL、IgE 58.5 IU/mL。

尿検査；特記すべき所見なし

動脈血ガス分析（室内気）；pH 7.479、PaCO₂ 29.5Torr、PaO₂ 65.7Torr、HCO₃ 21.7mmol/L
喀痰培養検査；一般細菌・抗酸菌ともに陰性

画像；胸部X線（図1）、胸部CTを提示する。

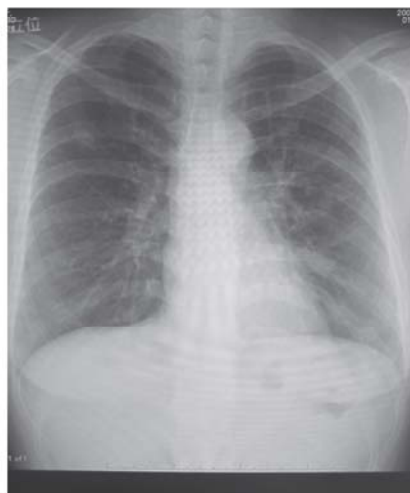


図1 治療前の胸部X線

問題1. 最も考えられる診断と鑑別疾患は何か。

問題2. 診断を確定するために必要な検査は何か。

問題3. 治療薬剤は何か。

解答と解説 公立阿伎留医療センター 内科医長(呼吸器内科) 熊澤文雄



問題1. 慢性好酸球性肺炎

問題2. 経気管支肺生検(胸腔鏡下肺生検・開胸肺生検)

入院後、気管支鏡検査にて経気管支肺生検(TBLB)および気管支肺胞洗浄(BAL)法を施行した。TBLBでは細気管支周囲に好酸球を伴う慢性炎症細胞浸潤を認め、一部肺胞腔内に好酸球を含む粘液物質が認められた。血管炎所見は認めなかった。

またBAL液では、細胞数 $1.4 \times 10^5/\mu\text{L}$ (Lympho 7%, Eosino 59%, Macro 34%)、CD4/CD8比 2.10であった。画像所見では、両側に非区域性に末梢優位の浸潤影を認めた(図1・2)。以上から慢性好酸球性肺炎(chronic eosinophilic pneumonia; CEP)と診断した。

緊急性を要する鑑別疾患にはChurg-Strauss症候群がある。心エコー・Holter ECG、BNPを実施し、異常は認めなかった。副鼻腔CT施行し、耳鼻科診察においても、副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎は認めなかった。24時間Creクリアランスも96.7と良好であった。以上からChurg-Strauss症候群の診断基準には合致せず、否定的であった。他に鑑別する疾患としては、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、間質性肺炎の一部(COP)などが挙げられる。



図2 治療前の胸部CT

問題3. ステロイド薬

CEPの治療はステロイド薬が主体である。通常、prednisolone(PSL) 0.5~1.0mg/kg/dayを経口投与から開始し、その後徐々に漸減する。PSLの効果は速やかに現れ、投与後2~3日で症状改善を認める。胸部陰影は1週間で改善傾向を認め、1ヶ月以内に消失することが多い。

慢性好酸球性肺炎(chronic eosinophilic pneumonia; CEP)

慢性好酸球性肺炎は30~40歳代の女性に多く、約半数の患者にアトピー歴が認められ、特に気管支喘息の合併が多い。発症は亜急性で、症状は、咳嗽、発熱、呼吸困難、喀痰などが高頻度に認められ、気管支喘息合併例では喘鳴がみられることがある。胸部X線では、肺野外側2/3に分布する末梢性の非区域性の浸潤影が特徴的である。血液検査ではWBC、CRP、IgEの増加を高頻度に認め、BAL液では好酸球の増加を認める。治療はステロイド薬が主体であるが、約半数に再燃を認める。再燃はprednisolone 10mg/day以下に減量した時に起こることが多い。長期予後は良好である。

【経過】 PSL 30mg/dayから開始し、第3病日には症状改善を認め、第16病日には胸部陰影は消失した。以後、外来通院でPSLを漸減しており、現在PSL 7.5mg/dayで再燃を認めていない。

【考察】 本症例は、既往歴にアトピー歴なく、また気管支喘息の合併も認めない非典型症例であるが、胸部X線で浸潤影を認めた時に、ただちに細菌性肺炎と診断せずに、丁寧に問診をとることが肝要である。

感染症だより

<全数報告>

第3週(1/14-20)から第7週(2/11-17)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 11件(肺結核 10件、その他 1件)

(五類感染症) ウイルス肝炎 1件(40歳代女性、推定感染経路: 針刺し事故)

麻疹 12件(検査診断例 3件、臨床診断例 9件/10歳未満 3件、10歳代 4件、20歳代 4件、40歳代 1件、/麻疹含有ワクチン接種歴無し 11件、1回 1件であった)

<管内の定点からの報告>

	3週	4週	5週	6週	7週
	1.14~20	1.21~27	1.28~2.3	2.4~10	2.11~17
RSウイルス感染症	0	0	0	2	1
インフルエンザ	100	119	252	140	87
咽頭結膜熱	0	1	1	1	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	12	10	6	5
感染性胃腸炎	37	23	29	61	66
水痘	8	7	9	9	2
手足口病	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	0	0	0	0	0
突発性発しん	1	1	0	2	0
百日咳	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	1
不明発疹症	0	0	0	0	0
MCLS	0	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	1	1	3
合計	156	163	302	222	165

※基幹定点報告対象疾病<細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)>: 第3週にマイコプラズマ肺炎1件の報告がありました。

① インフルエンザの発生報告は2週続けて減少、B型の検出が増加しています。

インフルエンザの報告数は、都内・管内ともに2週連続して減少し、注意報発令の基準値である定点あたり報告数10を切りました。このまま終息に向かうのかどうかは不明で、今後の推移に注意が必要です。第7週に東京都健康安全研究センターに搬入された検体からは、AH1亜型: 5件、AH3亜型: 1件、B型: 5件が検出されています。

② 感染性胃腸炎の発生報告が多い状態が続いています。

減少を続けてきた感染性胃腸炎の報告が、第4週より再び増加に転じました。昨年12月のピークには及ばないものの、今後の推移に注意が必要です。診察の際には、対症療法に加えて、必ず二次感染の予防(流水・石鹸による手洗いの励行、吐物下痢便の適切な処理など)についてのご指導をお願いします。とくに、学校・保育施設、老人施設などの利用者が患者の場合、施設での対応についてもご教授ください。

◎ 2008年1月1日から、麻しん・風しんは全数の届出が必要となっています。

麻しんの報告が第2週以後増加しています。第7週には都内で57例(管内6例)が報告されています。

先生方すでにご存知のとおり、感染症法施行規則の一部を改正する省令が施行され、2008年1月1日より麻しん・風しんの全数報告が開始されています。①麻しんについて、これまでの成人麻しん・麻しんの区別はなくなり、麻しんとして全例届け出る必要があります。風しんについても、同様に全例の届出が必要です。②麻しん・風しんともに7日以内の届出が必要ですが、麻疹についてはより迅速な対応をとるために、24時間以内を目処に届出を行ってください。③麻しん・風しんともにワクチン接種歴についても、必ず調査していただくこととなっています。④集団感染のおそれがある場合、感染拡大防止指導を実施いたします。発生届および患者の同意が得られた場合には裏面調査票の情報提供につきましても、よろしくお申し上げます。

※届出基準・届出用紙につきましては貴会を通じてすでにご案内しておりますが、以下の東京都感染症情報センターホームページからも取得可能です。

東京都感染症情報センター: <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/survey/kobetsu/index.html>

連載企画



俳句と短歌の35年

青梅市 石井好明

日記を読み返した。俳句や短歌のようなものが、ところどころに出てくる。小学校5・6年の時の担任の先生が、俳句や短歌というものを教えて下さったようで、その頃書いたものの中に

「梅芽ぐみ 春の近きを思い出し」

「元旦や 風が吹いても楽しけれ」というのが残っている。

中学1年(1941年)になると、毎日、日記を書かされた。毎週、「修身」の先生の検閲があるので、体裁のわるいことは書けない。

「わが泳ぐ 前をとんぼがかすめけり」は夏休みに卒業生に開放された小学校のプールで平泳ぎをしている鼻先の光景で、今でもありありと思い出す。一番好きな俳句である。

「夜長く昼短くて秋の日を 昼のうちにと夜になりけり」は先生に誉められた歌であった。

「暗い夜 不意にドボンと蛙かな」は「古池や」の焼き直しのようなだ。

「暗き空こほろぎの声黒き影 池のかたわら石の上にも」は日蝕の時のわが家の庭の光景であった。

「影長く夕陽は丸く野の道を 友と連れ立ち帰る楽しさ」とのんきな歌が出てくるが、この年の冬、日米開戦となった。

中学2年になると検閲はなくなったが、毎日、日記を書く習慣が身についていた。

「夏木立 日蔭に入れば蟬の声」

「せい高く 日廻り咲けり夏の午後」

「霜白く 身のひきしまる秋の朝」

「うぐいすの 声聞こえたり枕もと」

「湯上りの 足白くゆく夜の道」これは御

時勢で家庭ガス節約のため、お風呂屋にゆかなければならなくなった時の作である。

中学3年になると戦争が激化し、戦時教育も強化され、食糧難が本格的になり、俳句どころではなくなった。中学4年の5月には、中野も空襲で焼けた。(わが家付近は、好運にも焼け残った。)

高校2年(1946年)頃から、食糧難が緩和されると共に、小学校の同窓会ブームが起った。恩師の消息がわかり、昔の仲間を探し出し、先輩や後輩や、以前は顔しか知らなかった女子の同期生とも親しくなった。

この頃から再び、日記の中に俳句や短歌らしきものが出て来た。

「夜の道 誰に聞かさ下駄の音」中学3年の頃から革靴が手に入らなくなって、「学校」の許可をもらって通学も軍事教練も下駄ばき——普通の下駄ではなくすぐ歯がすりへってしまうので、朴歯の下駄だった。

大学3年の時、3人の仲間と御岳から山を越えて、奥多摩の境の分教場に恩師を訪ねた。

「山を下りて分教場に師の君を 訪えばなつかし炭火のかおり」はその時の作である。これで山歩きが好きになった。翌年、どの位歩けるか、試しに房総南端海岸を徹夜で歩いた。

「行き合うは 犬ばかりなり月の道」はこの時の作である。

「心合いて友と山行く楽しさに 里近づくを惜しと思ひぬ」

「雲晴れて夕映えすなり西の空 心は既に天城山ゆく」

「夜ひとりゆく旅なれば黒雲よ 星をかく

すなわが慰めを」

「しなの路の夜汽車の窓を流れゆく 黄色
き星よ月見草の花」

「有明の駅はやさしも陽ざかりの 鉄路の
わきに松葉ぼたん咲く」この二首は初めての
アルプス行の時の作である。

「気まぐれの旅立ちなるにわが母の 心づ
くしは有難きかな」出かける時は、いつもお
弁当を作ってくれた。

「いづこから何の花かは知らねども 夜道
に充てる香りなつかし」

「遠山は雨にけぶると見るひまに 迫り来
りぬ梢打つ音」

「熊笹をかきわくる手を休むれば 天地に
声なし雲取の森」

「杖の音は木の間にひびき 岩も木もおお
える苔にしみて消えゆく」

「月光の充ちて動かぬ山かいに これのみ
高しせせらぎの音」

「昼ならば笑いも充てむ峠茶屋 今休むも
の月と我のみ」

「夜はあけぬ忽然として色づける 山のも
みぢに陽はさし昇る」

「雪をとばし風荒れ狂う山肌の 氷に埋も
れこけの花咲く」

「ひねもすもの思わずして辿りきぬ 落葉
の道をさくさくと踏み」

「朝日のぼり富士の裾野にむら雲の むら
むら湧きて山遠のきぬ」これは大学4年の時
の作。

「月かげをまたたきさせて這松の 葉末を
鳴らす駒の朝風」

「あかつきの寒き山風避けむとて みやま
きんばいを岩かげに見ぬ」

「雲低く汽笛の音も山ふかき 森に吸われ
てひびかざりけり」

「ひろびろと浜辺に続く荒野原 ひとつ家
にゆく 人ひとり見ゆ」この二首は北海道で
の作。

「夕風の梢をわたる音絶えて 桧葉の小枝
は枯れ落つるなり」音もなく小枝が落ちると
ころを目撃した。

「山すその雑木林の間より 夕暮スキーと
もし火を見る」スキーにも熱中した。

インターン(1952年)になると、仕事の
歌も出てきた。「日ひと日のぞき暮して見出
しぬ ガフキー一号また出して見る」以後、
ガフキー一号は見たことがない。

「渡し船窓近くゆく川波に 幼き我のうれ
しかりけり」は佃島の渡し船で、窓近くまで
迫る川波を眺めてこわくもあり面白くもあつ
た幼い頃を思い出した歌である。

「あやにしき つみ上げたるか秋の山」

「見じと思うスキーの夢のかけめぐり 我
なやましき冬は来にけり」

「みどりけぶり落葉もけぶり霧こめし 奥
多摩の谷春雨ぞ降る」

1953年大学病院医局入局後も山歩きは止
めなかった。

「霧の中にきのう我が見し花は今も 雨に
ぬれつつ峰に咲くらむ」

「船長も洗濯物を干しながら ラヂオ聞く
なり南点の午後」(ラヂオは日米野球の中継であつ
た。)

「南点は今日も波風やまずして 甲板の下
にねて暮らしけり」

「ふるさとの初霜だより聞く頃は 南点の
陽もやややわらげり」

「顔を洗う水の冷たさ手にしみて 東京に
着きし朝なりと思う。」(東京湾内)

以上の四首は気象庁の南方定定点観測船に船
医として乗り組んだ時の作である。

「山を下りるバスの窓への夕暮れに 暮れ
残る花は山ゆりの花」

「道ばたに人參洗う人の顔も あかく輝く
武蔵野の秋」

「来て見れば雑木林のその涯に 今日も連
らなる武蔵野の山」の三首は1954年の作。

1960年青梅市立総合病院外科に赴任、院
内の医師住宅に住みこんだところ、時間外・
休日の呼び出しが頻繁になり2年目にやせて
肝障害が見つかり、過労のためと同情されて
長い休養期間を与えられた。(後年、C型肝炎
と判明したが、当時の手術は電気メスを使

う時以外は、ゴム手袋なしでどこへでも素手をつつこんでやっていた。)

「ものすべて もみぢに充ちて山小道」これは職場に復帰して山歩きを再開した1965年に剣山に登った時の作である。

「トンネルを抜けてわびしき山あいの 村を縫いつつ汽車は走りぬ」は1972年に越後駒に登った時。

「明日は山へ眠らんとしてひたすらに 枕べに高さ水音を聞く」は1974年、巻機山に登る前夜の作。

「揚げひばり 下は虚しき草地かな」は

1975年、河辺駅北口前での作。30年後の現在の変わりようにはただ驚くばかり。これを最後に俳句も短歌も出てこなくなった。小学校以来35年間、作ろうと思って作ったのではなくて、自然に出てきたのであったが、自然に出てこなくなったのである。(1997年以後も山歩きはつづけているが1996年からは、山も居心地のよいグループに恵まれて、専ら連れて行ってもらうようになった。2001年1月に「ドック医者山もスキーもやっています」という川柳のような近況報告を出している。)



スマトラの思い出 (4)

青梅市 鹿児島 武志

人生も半ばを過ぎてしまうと記憶力も鈍ってきて一昨日食べた飯のメニューなどまず覚えていないのが日常茶飯事である。ましてはるか4半世紀も前のことを思い出すのは概して容易ではない。しかし人は年をとっても昔の強烈な記憶はよく覚えているという事実は、私の父が、かれこれ60年以上前の軍隊での生活をまるで昨日のことのように唐突にしかも生き生きと話し始める経緯からも間違いないことである。

ひるがえって思い出し始めると、大概是楽しいとか嬉しいとか自分にとって都合の良いことのみ覚えているような気もするが、スマトラに赴任して医療事情についてはクリニックの仕事自体



写真1
手前はシグラ
グラの滝

は目新しさもなく漫然と過ごしたためか、白酒の底の方に沈殿した澱みのようにぼんやりとした記憶で残っていた。かけ出し外科医といえどもここでは腕を振るうチャンスなど全く期待はしていなかったのだが、さすがに半年以上も似たような疾患、しかも限られた地域での診療となるとカルテに書くべき内容などたかだか知れていることに気付く。

それでも日本国内とは違って学生時代以来、診た記憶のない経験を挙げるとすれば耳

垢による外耳道炎はよく見かけた。耳垢は採ってもらう方が気持ちよいのに決まっているが、耳の穴を覗くと作業現場で働く患者の耳の中ははたしてカビ？がはびこっていた。山を削りダムを完成させるのに400メートル

(8)

ルの縦穴を掘り下げるのには相当に長いアクセストンネルを作らねばならない(写真1)。ダムサイトに到る坑道の中は湿度、温度ともに極めて高くカビが生えるのには都合がいいらしい。馴れない額帯鏡をつけ鼓膜にさわらないようにそっと黒味がかった色のついた耳垢を採る技術はかなり向上した。ジク耳とはよく言ったものでそういう人に限っててんこ盛りの垢が出てくるようだ。

今でこそ小さい瞳孔から眼底鏡で眼底を診るのにさして苦勞はないが、当時は額帯鏡に馴れるのもひと苦勞しながら耳のみならず眼の異物も日常頻繁時に診せてもらった。先ほどの坑道とは坑内は相当に狭く、砂埃は激しいために前が見えにくくなり、いくら注意をしてもゴミは入ってくるらしい。その上、電灯敷設も不備な状態なのでトラックどうしの衝突もまれではなくほとんどのトラックでは前方の窓ガラスは無くなっていて。以前から不思議に思っていた前部がペシャンコの大型トラックを道でよくみかけた訳がようやく後で分かった。赴任中に坑道が全て完成したので記念式典が行われたが、トンネルマンにとっては喜びに満ち足りた瞬間であったと思う。(写真2)



写真2

また普段は減多にお眼にかかれなかった下の病気にも数多く出会った。患者は作業服ではまともに歩くに歩けないといった表現がよいのだろうか、とにかくトンネルなどを掘っている場合ではないのは間違いないらしい。淋病の疑い患者が来院すると、患者の検体で



写真3 クリニックのスタッフとドライバー

標本を作り、顕微鏡で鏡検するのが得意な現地人の検査技師がいて「淋病です。」と丁寧にも日本語で教えてくれた。(写真3)以来、へっぴり腰で診療所にやってきた男性を見掛けると第一発見者としての自信にあふれた彼の顔と抗生剤の注射が重なって目に浮かんだものだった。この病は戦国時代にも多数記録が残っていて歴戦の勇士で江戸時代の開祖となった家康公も大した薬がなかった当時には晩年さぞつらかっただろう。

さて一年間の滞在で最も印象に残った経験を父と同様に人様に語らずにはいられない事件が2つほどあった。12月6日に赴任しておよそサンタとは縁遠い暑い国でのクリスマスも過ぎた頃、困った事件が起きた。駐在社員の奥さんが特技のテニスのプレイ中張り切りすぎたせいか右のアキレス腱を不全断裂してしまった。まずいことに日本行きの飛行機は年末を控えて時遅く満席であり、やむなく現地です手術するはめになってしまった。私が担当していた山のクリニックから医局の先輩の赴任先の海のクリニックまで行程約200キロを搬送してたどり着いたのは暮れも押し迫る26日のことであった。

今にして思えばもっとよい方法があったのかも知れないが上司と相談して結局、脊椎麻酔で断裂部位を縫合することにした。一言でいうのは容易だが何しろ初めて手がけるオペのため勝手が判らない。恥ずかしながら教科書を見ながら、見よう見まねで患部をしっかりと縫合しギプスを無事に巻き終わるまでは冷

や汗の連続であった。唯一参考になったのは赴任直前に個人医院の当直をしていた際に、間違えて自らのアキレス腱の上に包丁を誤って落とした新米の板前さんの切れたアキレス腱を縫合した経験がまだ頭から離れていなかった点であった。眼科医となった今、それ以後の再発の連絡がないのはありがたい。

そして仕事が残すところあと2ヶ月となった頃、所属するインドネシア・アルミニウム会社のジャカルタ支店では最も困ったことが起きていた。日本人小学生がスクールバスから降りた際にバイクに跳ね飛ばされ、受傷後1週間以上たっても、なお意識不明との悪い知らせであった。現地での加療を止めて日本に帰国させるために機内に同乗して欲しい旨の連絡を受けた。

足掛け2日がかかりでジャカルタに着いたが、当時、まだ3台しかないCTの所見では患者は軽い脳浮腫をおこしているということであった。小学4年生の喉には気管切開がなされているのが痛々しかった。静脈は確保されていて呼吸困難はなく、現地では特にこれ以上の処置は不要というので帰国は可能ということであったが、付き添いについては内心はひやひやであった。

搬送中の機内の注意事項などの知識はないままにジャカルタ発のJAL機はシンガポール経由で熱帯夜の午後8時頃成田へ向けて出発した。このような事態を考慮して機内ではファーストクラスを6席とり簡易ベッドにして患児を寝かせ私は寝ずの番をしながらラインの様子とバイタルを定時に測定することにした。ファーストの椅子はさすがに座りごちがよいが、呼吸状態が気になって寝るどころではなかった。約8～9時間のフライトでそろそろ大島上空に差し掛かったころ彼の呼吸音がだんだんと荒くなり顔色も窓からさす朝日の中で青くなってくるのがはつきりしてきた。しきりに大きなシリンジで吸引を試みるが効果はなく、機内には市販の救急セットに入っている手動式の吸引器がないのがとても悔やまれこちらも次第に顔が蒼ざめて

いった。

やむを得ず機長に伝言して成田の救急病院に直行するように手配を頼んだが着陸までの時間があれほど長く感じたことはない。税関のチェックはなく、患者を降ろすカーゴ用の昇降台の傍で待つ救急車にそのまま飛び込み付近の病院へ直行した。早速気管内を吸引すると大きな痰が大量に吸引され途端に患児の血色は幸いにも回復していった。自分の力量ではここまでの事態は予想できずにいたので運に見放されてはいなかったことに感謝した。

ホッと安心する間もなく再度救急車に乗り、出発寸前、ギリギリまで待ってくれた大阪行きの便にやっとのことで間にあい昼頃には大阪市内のS病院に無事搬送できた。あとでJALには吸引器の常時設置をお願いしたがその後どうなったかは分からない。

ところでラッキーな後日談があつて、患者は受傷後40日経った頃より急速に意識状態が改善され退院し軽度の麻痺のみになるまでに回復したとの知らせを赴任終了後に帰国してから聞いた。奇跡とまではいわないが、きっと患児は生命力に恵まれていたのだろうと、機上で危うかったあの時間の流れと経験が忘れられず記憶力の落ちが著しい今日まで鮮明に記憶に残っている。(終わり)



② 西多摩医師会 学術講演会

日 時：平成 20 年 3 月 13 日（木）午後 7：00～8：00
場 所：公立阿伎留医療センター 地下 1 階 講堂
演 題：『疥癬の治療と診断』
演 者：九段坂病院 皮膚科 顧問 大滝 倫子 先生

③ 第 6 回西多摩医師会臨床報告会のお知らせ

日 時：平成 20 年 3 月 18 日（火）午後 7：30 から
場 所：青梅市立総合病院 南棟 3 階講堂
演題・演者：1. 「表皮剥離 当院の実態と対策」
（医社）葵会 青梅今井病院 武者 廣隆 先生
2. 「胸部大動脈に病変を有する炎症性大動脈瘤の一例」
公立阿伎留医療センター 西成田 進 先生他
3. 以下未定

④ 西多摩医師会 学術講演会

日 時：平成 20 年 3 月 21 日（金）午後 7：30～9：00
場 所：青梅市立総合病院 南棟 3 階 講堂
演 題：『西多摩地区における抹動脈疾患について早期発見、早期治療を目指して』
演 者：青梅市立総合病院 外科部長 正木 幸善 先生

⑤ 病院部 第6回市民フォーラムのお知らせ

日 時：平成 20 年 3 月 28 日（金）午後 6：30～
場 所：羽村市「ゆとろぎ」ホール（予定）
司 会：公立阿伎留医療センター 副院長 西成田 進 先生
講演・演者：1) 「救急車が来る前に、あなたに出来ること」
東京消防庁青梅消防署救急係主任 田倉健一 先生
2) 「おぼえておいて、救急処置のやり方」
青梅市立総合病院救命センター長 川上正人 先生
3) 「心肺蘇生法」AED の使い方
日本大学医学部救命センター 櫻井 淳 先生

地区だより

青梅地区 青梅市医師会ボーリング大会開催

2月16日の土曜日午後、青梅市新町の西東京レーンで青梅市医師会ボーリング大会が開かれました。総勢36名の出場で（医師会会員は9名）男女別では男性8名、女性25名、お子様3名とアットホームな大会でした。4名一組で計9チームの間で熱戦が繰り広げられましたが、時間の都合で2ゲームでの入賞争いとなりました。競争心が功を奏したのか、出場者は結構早いペースで時間ギリギリまで固くなった肩をさすりながらの好試合でした。マグレで入りストライクを取った人も、余裕でスペアを取った人も得点が入る度に回りで歓声がどよめき賑やかな大会模様でした。懇親会はオールドアベニュー（河辺町）で行い女性ハンディ15のルールで上位5チーム男女別に上位入賞5名がそれぞれ表彰されました。

（文責：鹿児島 武志）

チーム別

1位	足立・片平連合チーム
2位	チームすみれ
3位	多摩リハビリ病院チーム
4位	医師会混成チーム
5位	チーム片平

男性個人

1位	久保輝夫（多摩リハ病院）
2位	菊池 孝（菊池耳鼻咽喉科）
3位	牧田隆司（多摩リハ病院）
4位	片平潤一（片平医院）
5位	坂元 龍（坂元医院）

女性個人

1位	岩崎知美（すみれクリニック）
2位	加藤貴美加（三慶病院）
3位	小野溶江（足立医院）
4位	鈴木峰子（片平医院）
5位	片平美奈子（片平医院）

（敬称略）





学術部 Information



《学術講演会要旨》

日 時：平成 20 年 2 月 7 日（木）

場 所：公立阿伎留医療センター 地下 1F 講堂

演 題：「直腸癌切除に必要な泌尿器科の解剖とその処置」

講 師：公立阿伎留医療センター泌尿器科 科長 朝岡 博 先生

1. 男性骨盤内臓器の解剖、生理

1) 膀胱の血管支配

動脈系：内腸骨動脈の分岐である上下の膀胱動脈が分布

上膀胱動脈：膀胱体部

下膀胱動脈：膀胱頸部

静脈系：前立腺静脈叢とともに膀胱静脈叢を形成して内腸骨静脈に戻る

2) 前立腺の血管支配

動脈系：下膀胱動脈の分岐である前立腺動脈が分布

静脈系：深部陰茎背静脈の分岐が合流し、前立腺の被膜正面と側面に静脈叢を形成している。(Santorini 静脈叢 図 1)

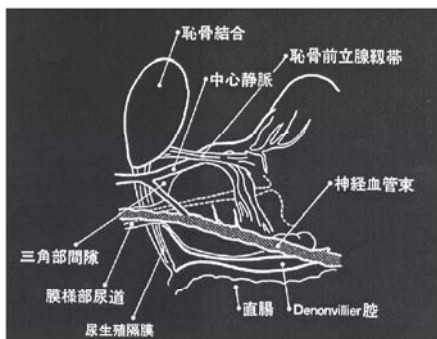
膀胱静脈叢に合流して内腸骨静脈流入する経路と、内陰部静脈を介して陰茎海绵体神経と共に神経血管束を形成し、内腸骨静脈に流入する経路がある。膀胱全摘や前立腺全摘の際に、この静脈叢の処置を誤ると大出血の危険がある。

3) 膀胱の神経支配 (自律神経) (図 2)

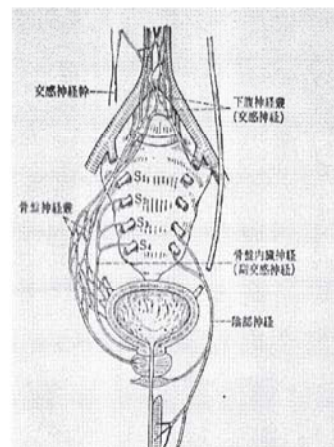
交感神経：Th11 ~ L2 の腰部交感神経節より、下腹神経叢—下腹神経—骨盤神経叢を経て膀胱に達する。

副交感神経：S2 ~ 4 から発する骨盤内蔵神経より、骨盤神経叢を経て膀胱に達する。

随意神経：S3 ~ 4 から発する陰部神経が外尿道括約筋に達している。



【図 1. Santorini 静脈叢と神経血管束】



【図 2. 下部尿路の神経分布 (新臨床泌尿器科全書)】

自立神経の働きについて、交感神経は尿の貯留を、副交感神経は排尿運動に関与していると考えれば理解し易い。

2. 骨盤内手術による泌尿器科領域の障害

1) 骨盤内手術時の神経温存と排尿、性機能障害

排尿障害：片側の骨盤内蔵神経、骨盤神経叢の温存により排尿機能は温存される可能性が高い

射精機能：片側の腰内蔵神経一下腹神経一骨盤神経叢の温存により逆行性射精などの障害は回避可能と考えられる。

勃起障害：片側だけの陰茎海綿体神経一骨盤神経叢の温存だけでは結果的に満足な勃起機能の温存は困難で、両側の温存が望ましい。

2) 骨盤内手術による尿路損傷と対処法

- 頻度：骨盤内手術の合併症として 0.5 ~ 1% に生じ、原因手術は婦人科領域手術が多い
- 損傷部位：下部尿管と膀胱
- 危険因子：骨盤内手術、放射線治療の既往

A. 術中尿管損傷時の対処

(1) 開放手術

- ★ 尿管尿管再吻合
- ★ 尿管膀胱新吻合
尿管と膀胱の距離が長い時には Psoas hitch 法、Boali flap 法
- ★ 尿管遊離回腸膀胱新吻合

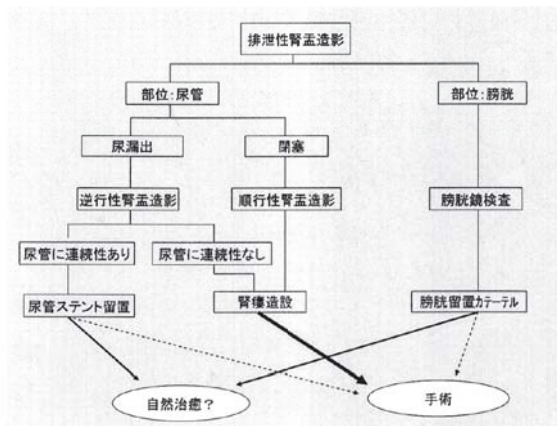
(2) 内視鏡的処置

- ★ 尿管ステント留置
- ★ 経皮的腎瘻造設術

B. 膀胱損傷時の対処

膀胱留置カテーテルのみで自然治癒の可能性も期待されるが、困難な場合には瘻孔閉鎖術が必要。

C. 術後に尿路損傷を疑う場合の診断治療の流れ (図 3)



【図 3. 術後発症例における診断・治療の流れ (大野芳正ら：臨床泌尿器科 55：232 - 234, 2001.)】



広報部 Information



☑ 読書案内

今回は少し趣を変えて一般書からでなく医療関係（医学書以外）についてのベストセラーもしくはそれに近い評価であった書物の紹介です。

1. 病気にならないための時間医学

大塚 邦明 ミシマ社

生体時計（あるいは体内時計）と生体リズムについての入門書。未病の原因が生体リズムの狂いから生ずることを強調サーカディアンリズムが人体の仕組みに大に関係していると述べている、興味深い読み物。

2. わたしのリハビリ闘争

多田 富雄 青土社

講演先で脳梗塞に倒れ半身麻痺と嚥下障害に加えて前立腺ガンに悩む著名な免疫学者が現在の行政のリハビリに対する問題点を鋭く突いた内容。障害を乗り越えつつ新作能を書き下ろした話は有名。

3. ドキュメント 医療危機

朝日新聞社編 朝日新聞社

新聞社の連載記事を一冊にまとめたもの。日本の将来を脅かす医療危機について解説する各方面の筆者の紹介も写真いりになっており、各編の最後に読者にとり有益なサイト情報も紹介されている。

4. 医療が悲鳴をあげている

近藤 喜代太郎 西村書店

公衆衛生の専門家である著者が産婦人科医の不足、医療事故の現実、裁判などの諸問題にふれる。

5. 改革のための医療経済

愉柄汪 メディカ出版

アメリカロチェスター大学の医療経済学の専門である著者は医療経済の立場からアメリカの医療費の高騰化について多くページを割いており、日本の医療改革への問題点にも触れている。

6. 医療立国論

大村 昭人 日刊工業新聞社

図表を多く使わず諸外国との医療問題の比較を判り易く解説している。

7. 崩壊する日本の医療（ポケット解説）

秀和システム編集

日本国内の医療事情と問題点を図式、グラフを多く用いて解説している。

8. 遺伝子が明かす脳と心のからくり

石浦 章一 羊土社

東大での講義集から人気のあった講義内容を著書にまとめたもの。やる気とは……、男女の遺伝子の違いによる様々な行動の変化などを解説している。同様の書物は「遺伝子に仕組まれた遺伝子の「いたずら－東京大学人気講義録－file2」の題で同じく同社より出版されている。

9. 教える「いのち」のために

山本 孝史 朝日新聞社

現職国会議員の立場であり胸腺ガンの肺および肝転移にて先日逝去した著者が酸素チューブをつけながらも国会に登場してガンに対する治療現場の問題点を最後まで訴え続けてきた作品。故人の必死の活動は党派を超えて感銘をもたらせた。

10. わたし、ガンです。ある精神科医の耐病記

頼藤 和寛 文芸春秋（文春新書）

こちらも 52 才で直腸癌の診断を受け、医療の原点を医療職の立場から冷静に見つめ、痛みを克服しながら死に至るまでの闘病記を生々しく語った作品。感傷的になる部分はなく新聞紙上でユーモアあふれるカウンセリングを行ってきた故人の面目を語るにふさわしい内容。

☒ お勧めサイト

小欄もここまでくるとお勧めサイトを探すのには骨が折れてきます。そろそろ春も間近になり花粉の季節が過ぎると桜の季節です。今月は京都の見所や宿泊、食事など京都観光の紹介サイト、2 番目には話題の脳の若返りといえば第一人者の川島教授のサイトを紹介し、最後は小欄の購読者よりも若い人むけですが、雑学の寄せ集めが面白いサイトの紹介です。

<http://www.kyoto-okoshiyasu.com>

京都の日帰りお得パックなど旅行社の宣伝が多い中、実際には日帰り旅行は実行するのが強行なスケジュールでしょうが、画面では見るだけでも観光した気分になります。

<http://www.idac.tohoku.ac.jp>

Ryuta kawashima laboratory brain (川島教授研究室) の紹介サイトです。学習療法による「経済効果」の試算がなされており、本療法により介護施設における介護度の悪化を予防でき、その経済効果予測は 1720 億円に達すると期待されています。

著作の「脳年齢若返り 大人の 5 分間トレーニング」大和書房（文庫本）をつい買ってしまいました。

<http://r25.jp>

この r とは restrict の略で 25 歳禁ということですが、内容は部門別の雑学が沢山あり、真面目なサイトです。ネタは 2007.7 の「国の借金」が 2007.3 の発表で 834 兆 3786 億円の記事との出会いが始まりでした。日本の債務は対 GDP 比で 160% という断トツの世界第一という決して有難くない内容でした。

(文責：鹿児島 武志)

理事会報告

★ Information

2月定例理事会

平成20年2月12日(火)

西多摩医師会館

[出席者：真鍋・小机・新井・鹿児島・小林・鈴木・田坂・蓼沼・中野・西成田・野本・松原・足立]

【1】報告事項

1. 西多摩地区医療懇話会 (2/9 羽村市魚観荘)

特定健診についての話題に関して、西多摩統一料金については、行政との間に温度差あり

2. 新年賀詞交歓会収支報告について (1/26)

会員41名、来賓23名の参加あり

3. 各部報告

総務部：○西多摩地区医療保健衛生協議会報告(1/25)及び(2/4)協議事項で説明
行政間での打合せ2/15 医師会2/18 その後協議会

○特定健診(機関届)提出報告(受託意思表示の医療機関101先のうち100先
西多摩医師会に提出済み)

○地域脳卒中医療連携検討会(アンケート実施中269先へ)

○平成20年度地域産業保健センター事業に係わる委託事業に公募提出報告

学校医：都医学校医研修会報告(2/2)(都の医師会館)

講演：「養護教諭に必要な感染症・予防接種の知識」

公立阿伎留医療センター 岩本孝夫先生

介護保険：「かかりつけ医認知症対応力向上研修会」報告(2/9 公立福生病院)会員26名他

講師：(玉木先生、平川先生)

病院部：次年度講演会テーマ、希望講師などのアンケート実施(理事・病院部委員)(2/1)

6月講演の講師を募集中

3月講演のテーマ、未定

4. 地区会よりの報告(各地区理事)

青 梅：2/20 青梅市と青梅市医師会との懇親会

3/4 総会開催

福 生：2/21 総会

羽 村：なし

あきる野：なし

瑞 穂：なし

日の出：なし

5. その他報告

西多摩師会と地区医師会の講演の同日開催とならないよう注意していただきたい。(真鍋会長)

【2】報告承認事項

1. 入会会員について ― 承認 ―
B 会員：高木病院 1 名
2. 平成 20 年度福生市立学校医の選任について ― 承認 ―
3. 20 年度年会費の減額について（木野村医院・館野産婦人科） ― 承認 ―

【3】協議事項

1. 特定健診について
8 市町村医療保健協議会代表者との協議内容など及び「医療懇」での要請などについて
 2. 平成 19 年度第 2 回定時総会議題及び総会前の講演について ― 承認 ―
福生病院に講演依頼の予定
 3. 平成 20 年度各部事業計画書（案）の承認について ― 承認 ―
 4. 平成 19 年度収支補正予算書（案）の承認について（経理 中野理事） ― 承認 ―
 5. その他
 - 平成 19 年度緩和ケア人材育成研修会（青梅市立総合病院第 2 回）開催に伴う閉会挨拶依頼について（3/1（土）PM1 時 30 分から 5 時）（野本理事） ― 承認 ―
小机副会長に依頼
 - 特定健診機関届先の「運営について重要事項に関する規定の概要」について
西多摩医師会ホームページへの入力記入について
今月より開始する
 - 平成 20 年度第 1 回定時総会日程（案）について ― 承認 ―
5/29（木）フォレストイン昭和館
経理部会 4/23、会計監査会 4/25
 - 生保指導調査立会 2/21（青梅坂本病院）（中野理事立会予定）
 - 本会賃金規定の一部改正（時間外労働割増賃金・休日労働割増賃金・深夜労働割増賃金）
について（経理中野理事） ― 承認 ―
第 9 条の 1 項を下記のように改正する。

時間外労働割増賃金	新	(固定給÷1 月平均所定労働時間) × 1.25 × 時間外労働時間数
	旧	(基本給+精皆勤手当÷ ") × 1.25 × "
休日労働割増賃金	新	(固定給÷1 月平均所定労働時間) × 1.35 × 休日労働時間数
	旧	(基本給+精皆勤手当÷ ") × 1.25 × "
深夜労働割増賃金	新	(固定給÷1 月平均所定労働時間) × 0.25 × 深夜労働時間数
	旧	(基本給+精皆勤手当÷ ") × 0.25 × "
- 平成 12 年 6 月 7 日改正（労働基準法第 37 条第 1 項の休日の時間外割増賃金に係わる率
の最低限度を定める政令）に基づく改正

- 平成19年度東京都医師会「健康食品に関する安全性情報共有事業」に係わる医師向け及び市民向け研修会の実施について
時期、場所、講師、その他について
- 学校健診の前に養護教諭、保育士、小児科医対象に「成長曲線と成長障害について」の講演会の予定（福生病院 松山先生）
西多摩医師会共催という形で開催を承認する方向で合意

会員通知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 産業医研修会（3/16 田園調布医師会）
- ” （3/9 東京大学医師会）
- ” （3/15 日本医科大学医師会）
- 平成19年度緩和ケア人材育成研修会(3/1)
- 西多摩地域脳卒中医療連携検討会アンケート
- 平成20年度診療報酬請求書提出日一覧表
- 麻しん・風しん全数報告の開始等に係る周知について
- 平成18年度人間ドック概要（青梅市健康センター）
- 定期予防接種を受ける前に（ポスター）
- 第15回西多摩三師会市民公開講座（チラシ）
- 告示（西多摩医師会理事・監事・医道審議会委員）
- 告示（日本医師会代議員・予備代議員）
- 肝炎ウイルス検診を受けましょう(チラシ)
- 青梅市立総合病院だより
- 東京都医師会会員名簿
- パネルディスカッション（3/7）
- 薬価・点数早見表幹旋について
- 公立阿伎留医療センター医局CPC（2/25）
- 学術講演会（3/13）

医 師 会 の 動 き

医療機関数	211	病 院	29
		医院・診療所	182
会 員 数	495	A会員	203
		B会員	292

会議

- 2月4日 西多摩地区医療保健衛生協議会
- 9日 西多摩地区医療懇話会
- 12日 定例理事会
- 20日 在宅難病訪問診療（羽村）
- 22日 会報編集委員会
- 22日 経理部会
- 26日 定例理事会
- 28日 在宅難病訪問診療（瑞穂）

講演会・その他

- 2月8日 保険指導整備委員会
- 9日 かかりつけ医認知症対応力向上研修会

認知症について

1) 基礎知識

4) 「連携」その他

講師：認知症サポート医

東京都医師会理事

玉木 一弘 先生

福生市介護福祉課長

古谷 久雄 様

2) 「診断」

3) 「治療とケア」

講師：認知症サポート医

東京精神神経科診療所協

会会長

全国老健協会常務理事

平川 博之 先生

20日 法律相談

役員出張

2月2日 東京都医師会学校医研修会

表紙のことば



『ツマグロヒョウモン』

昨春、庭のユキヤナギで翅休みするメスのツマグロヒョウモンを運よく見つけて撮りました。オスは翅先の紺色がなくもっと地味です。

昔の昆虫図鑑では本州南、九州、四国に棲息となっていて虫少年には高嶺の花でした。10年ほど前から関東でも見かけることが多くなったようで、やはり虫も温暖に魅かれ北上しているようです。

坂本 保己

お知らせ

事務局より お知らせ

平成20年4月(3月診療分)の

保険請求書類提出

4月8日(火)

— 正午迄です —

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談ください。

- ◎相談日 3月は12日(水)
 4月は9日(水)の予定です。
- ◎場 所 西多摩医師会館和室
- ◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
 刑事に関するどのようなものでも結構です。
- ◎相談料 無料(但し相談を超える場合は別途)
- ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- (注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

社団法人 西多摩医師会

平成20年3月1日発行

会長 真鍋 勉 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL.0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 鹿兒島武志

宮下吉弘 野村中夫 近藤之暢 渡辺良友 江本 浩
道又正達 古川朋靖 鈴木寿和 馬場眞澄 石井好明

印刷所 マスダ印刷 TEL.0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて……
(株)武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・S サービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659



**FOR QUALITY OF LIFE
SINCE 1955**

臨床検査のフロンティア
保健科学研究所は
21世紀の医療と健康を
バックアップします



株式会社 **保健科学研究所**

● 本 社 〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 045-333-1661 (大代表)